

JICS REPORT

【ジックス・レポート】

財団法人 日本国際協力システム

2007

Apr.
No. 65

2007年4月16日【編集発行人：櫻田 幸久】
発行：（財）日本国際協力システム
〒162-0067 東京都新宿区富久町10番5号 新宿EASTビル
Tel 03-5369-6960 / Fax 03-5369-6961
E-mail: jics@jics.or.jp / http://www.jics.or.jp

特集

新規無償資金協力とJICS

より高度な調達監理へ

2006年度に創設された「防災・災害復興支援無償」と「コミュニティ開発支援無償」は、スマトラ沖大地震・津波被害支援での経験をふまえて新設されたプログラム型の無償資金で、援助の効果と効率向上を図るものです。JICSは調達監理機関として最初の案件から関わっています。本特集ではこの2つの新規無償について紹介します。

「防災・災害復興支援無償」は、自然災害に脆弱な開発途上国の防災対策や災害後の復興支援を行うものです。また、「コミュニティ開発支援無償」は、貧困、飢餓、疫病など、人命や安全な生活への脅威に直面するコミュニティの総合的能力開発支援を目的としています。

これらの新スキームは、スマトラ沖大地震・津波被害の支援での経験を生かしたものです。同支援では、ノン・プロジェクト方式を採用し、柔軟な工期の設定を行うことで、災害直後の緊急支援から本格的な復旧・復興支援に至るまで切れ目のない、そして被災地において変化し続けるニーズに応じた支援を実現することができました。これを制度として無償資金協力の枠組みで実施方法を確立したものにしようというのが「防災・災害復興支援無償」です。JICAが実施する概略設計調査の結果をふまえ、複数のコンポーネントからなる復旧・復興事業計画に対し、被災国に資金が一括供与されます。一方、現地リソースの積極的な活用によるコスト削減を図り、さまざまな分野への支援を組み合わせることでコミュニティに対する総合的な支援を行おうというのが「コミュニティ開発支援無償」です。

【防災・災害復興支援無償】

熱帯低気圧スタン災害（グアテマラ）

2006年8月10日、日本政府とグアテマラ政府との間で、「熱帯低気圧スタン災害復興支援計画」に対し、8億3400万円の無償資金協力をを行うことが合意されました。防災・災害復興支援無償の第1号案件です。それを受け、9月14日に、JICSはグアテマラ経済企画庁と調達代理契約を締結しました。



熱帯低気圧スタンで崩壊した橋の復旧工事を行っている（グアテマラ）

CONTENTS

- P-1** 【特集】
新規無償資金協力とJICS
より高度な調達監理へ
- P-3** 【OPINION】
暴風スタン被害への援助に感謝
グアテマラ ケツツアルテナンゴ市長
ホルヘ・ロランド・バリエントス・ペレセール
- P-4** 【TOPICS】
研究支援無償
カンボジア 地雷除去機・探知機の
現地試験が終了
NGO支援事業
2006年度支援団体決定
- P-5** 【NGO紹介】
アフリカ地域開発市民の会
住民対象にエイズ学習会
- P-6** 【JICSのうごき】
2006年度第二回通常評議員会・
理事会を開催
経営企画準備室を新設
- P-6** 【在外勤務者リレーエッセイ】
映画の前にご起立を
JICAタイ事務所出向 飯干奈美
- P-6** 【お知らせ】
ワン・ワールド・フェスティバルに出展

2005年10月、熱帯低気圧（暴風）スタンによる集中豪雨におそわれたグアテマラは多大な被害を被り、その額は、同国の2004年GDPの3.4%程度にあたる約9億7000万ドルにのぼりました。

日本政府は、10月9日に毛布、浄水器、簡易水槽などの緊急援助物資を供与、また同月28日には被災者への食糧支援などを目的とした緊急無償資金協力を決定、実施しています。グアテマラ政府も、こうした協力に加え、自国の予算を投資し緊急の復旧などに努力する一方、2006年3月には将来的なリスクに対処するための提言を含んだ「復興計画」を発表しました。この計画は先住民や社会的弱者への配慮を基本的な考え方として策定され、県別に復興プロジェクトが発表されています。しかし復興資金は十分でないため、日本をはじめとする国際社会に支援を呼びかけていました。

防災・災害復興支援無償「熱帯低気圧スタン災害復興支援計画」では、サン・マルコス県の農業灌漑施設、橋梁、ケツアルテナンゴ市の上水道施設の復旧を実施します。農産物が経済の根幹となっているグアテマラでは農業灌漑施設の復旧は重要です。またケツアルテナンゴ市はグアテマラ第二の都市で、同市の人口の半分にあたる約6万5000人の市民の生命線である給水施設がスタンにより被害を受けました。その被害を受けた給水施設を再建し、市民の飲料水を確保することは急務です。

JICSは、この案件実施に必要な再建



工事などの役務と資機材の調達業務、それに伴う支払い手続きを含む資金管理業務を担当しながら、案件の進捗を管理しています。

ジャワ島中部地震災害（インドネシア）

グアテマラとはほぼ同時期の2006年8月15日、日本とインドネシア両政府間で合意されたのが、8億9000万円の防災・災害復興支援無償資金協力です。それを受け同月22日、JICSはインドネシア国家開発計画庁と調達監理契約を締結しました。

2006年5月27日に、ジャワ島中部のジョグ・ジャカルタ市沖合で発生した地震は、死者約5800人、負傷者約3万9000人、避難民約213万人、被災家屋約61万戸の被害を出しました。日本は緊急援助物資の供与、インドネシア政府に対する緊急無償資金協力、国際機関経由の緊急無償資金協力を実施。こうした日本をはじめとする各国の緊急支援により、災害直後の緊急フェーズは脱しました。さらに、防災・災害復興支援無償の活用により、復旧・復興フェーズに移行した被災地に対し、引き続き迅速な支援を実施することになったものです。

地震被害が最も甚大であったバントゥール県で、小学校2校と中学校7校の整備、保健センター5カ所（基礎医療機器の機材支援も含む）の整備を行います。2006年11月29日に着工、最も工期が短い施設である保健センターは2007年5月中旬に完工・引き渡し、同年11月下旬にはすべてが完工する予定です。

防災・災害復興支援無償は、緊急性が高い一方で複数コンポーネントの復

旧・支援が求められるため、より高度な調達監理能力やさまざまな分野の知見が必要とされます。グアテマラ、インドネシアの案件ともに、担当したJICSスタッフは、スマトラ沖大地震・津波支援にかかわっています。そこでの経験が今回の防災・災害復興支援無償で生かされたともいえます。

【コミュニティ開発支援無償】

2006年12月5日にコミュニティ開発支援無償第1号としてセネガルの「小中学校教室建設計画」への支援が決まりました。続いて2007年2月1日にニジェールの「マラディ州およびザンデル州小中学校教室建設計画」、同年3月5日にマダガスカル「アンツィラナナ州およびトリアラ州小学校教室建設計画」への支援が、それぞれ政府間で合意されました。JICSはこれらの被援助国政府の代理人として事業を実施するため、調達代理業務契約を締結し、その後は事業実施に必要なコンサルタントや施工業者などの役務や資機材の調達を行っていきます。



アフリカで開始されたコミュニティ開発支援にもJICSは携わっている（ニジェール）

現場担当者の声

新スキームの調達業務にかかわって

根気強く説明

2006年9月初旬グアテマラ入りし、最初に取りかかったのが、グアテマラ政府との調達代理契約だった。担当省庁の経済企画庁に対し、新しいスキームの主旨・内容を、先方が担う手続きとJICSの担う業務について整理しながら、根気強く説明する必要があった。

続いて事務所立ち上げ。物件探し、事務機器選定・購入またはレンタル契約…。少人数事務所なので、現地スタッフにも同じ感覚で動いてもらわないと仕事をまっとうできない。スタッフに対する本プロジェクト、JICSの立場・業務についての説明にもかなり労力を費やした。

JICSって何だ？

施工業者選定のための入札業務に関しては、コンサルタントの技術的助言を得ながら、現地の慣習をふまえながらも日本の無償資金協力の案件として適格に実施されるよう気を配った。グアテマラでのJICSによる入札会の開催も初めてであったため、特に、透明性・公正性を最優先とし、入札条件に規定している時間、場所、提出書類の遵守および適切な審査を心掛けた。

当初、入札参加業者は、「JICSって何だ？」という面持ちで来ており、入札における厳しい対処に対し不満の声が出たこともあった。しかし、回を重ねていくにつれ、「JICSの入札は、こうなんだ」ということを各参加者も理解し、不満の声もなくなった。各関係機関からも、JICSの公正かつ整然とした入札業務に対し賞賛を得、経済企画庁からは、入札から契約・着工までの迅速さについて驚きと賞賛の言葉をいただいた。

時間との戦い

3案件の業者と契約後、各サイトを回り着工を見届けたときは感慨深く、「やっと、折り返し地点まで来た」という気持ちでいっぱいになった。半年前に本案件のために来たころ、「まずは着工！」との意気込みがあったものの、なかなかその像が見えてこず、毎週金曜日に、「もう週末だよ」と他のスタッフと言い合っていた。特に、本案件は、主要箇所の工事を5月下旬からの雨季までに終わらせなければならないという、自然相手のタイムリミットがあるため、常に時間との戦いだ。今後も、予定通り工事が進み、晴れて竣工の日を迎えられるよう、日々、進捗監理を行っていきたい。



灌漑施設着工を確認するJICSスタッフ



JICSに関わりのある外部有識者による、国際協力についての提言、考察などをご紹介します。



調達代理契約締結後のケツアルテナンゴ市長(右)

グアテマラ ケツアルテナンゴ市長

ホルヘ・ロランド・バリエントス・ペレセール

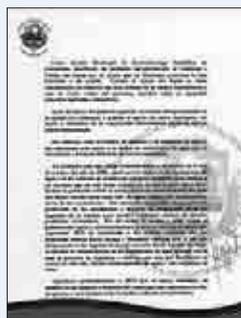
Jorge Rolando Barrientos Pellecer

グアテマラ共和国のケツアルテナンゴ市長として、わが市に対するさまざまな無償資金協力に関し、日本政府と日本国民へ感謝の意を表します。日本の協力により、12万人以上が恩恵を受ける都市部の配管改修だけでなく、農業、教育に関するプロジェクトも進んでいます。私たちはとても遠くの水源に依存しているうえに、十分な飲料水を得ることができませんでした。しかし、日本の大使や援助に関わる方々の協力のおかげで、この問題は解決することでしょう。

2005年10月にわが市に甚大な被害をもたらした暴風スタンは、水源や市の貯水タンクの配管に深刻な打撃を与え、現在もまだ復興途上にあります。そのうえ、水源付近にある川の汚水がひどくなったために、住民は水汚染の被害を受けています。水源保護計画の開発や貯水タンクへの導管改善が必要ですが、わが市は経済的な困難を抱えているため、日本政府へ協力を依頼しました。そして、幸いにもこのプロジェクトに関する協定が結ばれ、JICSのグアテマラ事務所の協力により、飲料水の水源改修を開始することができました。この貯水タンクと配管のプロジェクト(一般無償)は、今年3月には終了する予定です。

このような多大な協力を1つの国から受けたのは初めてのことです。わが市のすべての住民が、日本政府の無償資金協力とJICSの協力で深く感謝をしています。日本による暴風スタン被害に対する無償資金協力は、発展途上段階にある市に対する、日本と日本国民の連携の精神や普遍的精神の証しであり、世界中の人々に対する模範となることでしょう。

感謝を込めて



暴風スタン被害への援助に感謝

研究支援無償

カンボジア

地雷除去機・探知機の現地試験が終了



現地試験が行われた地雷除去機

カンボジアで実施されていた地雷除去機と地雷探知機の現地試験が2007年1月下旬に無事終了しました。

20年以上におよび内戦が続いたカンボジアでは、いまま約600万個の地雷・不発弾が残っていると推定されており、年間約900人が被害を受けるなど、住民の安全な生活や地域経済の発展を妨げています。カンボジアでの地雷除去活動は現在、主に手作業で行われていますが、地雷除去活動の効率性や安全性などを向上させるために、カンボジア政府は、地雷除去活動の機械化を模索しています。

一方、日本では、地雷除去活動の効率性や安全性の向上を目的に、地雷除去機や地雷探知機の開発・研究が進められており、政府もこれを支援しています。カンボジア政府は、日本で進められているこれら機材の開発・研究に以前から注目してきました。しかし、地雷除去機や地雷探知機などの機材は、土壌・

気候などの自然条件や、地雷原の状態への適合性を綿密に検討しなければ、実用化することは困難であるといわれています。カンボジアで日本の機材を現実に活用するためには、これらの機材を現地に輸送し、多角的な実用化のための試験を行うことが不可欠なのです。

このような状況下、日本の地雷除去機や地雷探知機をカンボジアへ輸送し、現地試験を行うことを目的とした「地雷除去活動支援機材開発研究計画」に対して、4億1600万円の研究支援無償資金協力を実施することが、2006年3月17日に両国政府間で合意されました。

それを受けて、JICSはカンボジア地雷除去活動センター（CMAC）との契約に基づき、プロジェクトの実施監理を行ってきました。

日本とカンボジア両国の有識者で構成される選考委員会を5月に開催し、地雷除去機4機種、地雷探知機5機種を採択しました。除去機は8月にシムリアップの試験場で性能試験と対爆試験を実施し、その後10月から11月にバタンバンの地雷原でこれらの機材を使用する実地試験を行いました。探知機は11月から1月にシムリアップの試験場で性能試験が実施されました。

参加メーカー各社が、今回の実験結果を持ち帰り、よりカンボジアに適応した機材の改良が行われることとなります。



このような携帯型探知機のほか、車載型探知機の性能試験も行われた

NGO支援事業

2006年度支援団体決定

JICSは、国際協力の場で活躍するNGOの発展に貢献するため、創立10周年を記念して、1999年度よりNGO支援事業を開始しました。この事業は、NGOの活動に必要な資材・機材の購入費や輸送費、現地プロジェクトと団体基盤強化のための団体運営費を、1件あたり100万円を上限に支援するものです。

8年目となる2006年度は、JICSホームページや国際協力情報誌などへ募集広告を掲載し、11団体からの応募がありました。その後、外部有識者を含む審査委員による審査を経て、次の7団体に対し、総額約575万円の支援を実施しました。

2006年度は、従来に比べて、「団体基盤強化費」に関する申請が増加したこ

とが特徴的でした。広報活動や財源確保、人材育成などを通じた組織基盤の強化は、NGOがよりよい事業を展開するために不可欠であるとの理解に基づき、JICSの支援事業においても団体基盤強化を重視しています。

今後も、JICSはNGOのニーズの把握に努め、役立つ支援のあり方を検討していきたいと考えています。

2006年度NGO支援事業 支援団体一覧 (50音順)

団体名	活動国	プロジェクト内容	支援内容
(特活) アジア日本相互交流センター	フィリピン	パソコンの購入によって、プロジェクトの実施体制の効率化と広報活動の強化、および会計やフェアトレード商品管理システムの改善を図る。またフェアトレード推進スタッフを配置し、自主財源の強化を図る。	プロジェクト運営費 団体基盤強化費
(特活) 幼い難民を考える会	カンボジア	団体の運営するカンボジアの織物研修センターで使用する織物テキスト(2005年度JICS支援により製作)について、利用者からの提案に基づく見直しと増刷を行う。	資機材購入費/輸送費 プロジェクト運営費
(特活) カラ=西アフリカ農村 自立協力会	マリ	本部の事務機器を整備することで、組織基盤の強化と学校授業や講演会などの国際理解教育活動の拡充に努める。	団体基盤強化費
(特活) 地球市民ACTかながわ /TPAK	タイ	タイ山岳民族の学校寮建設や栄養改善などのプロジェクトのノウハウを、タイ側の教師らの手によりミャンマーの少数民族に伝える。	資機材購入費/輸送費 プロジェクト運営費
(特活) TICO	ザンビア	プロジェクトの情報や写真を国内での学校授業や国際協力合宿などに活用することで国際理解教育活動の質を充実させるとともに、団体の認知度の向上と会員の増加をめざす。	団体基盤強化費
ミャンマーの医療を支援する会	ミャンマー	医療設備が劣悪なため感染症の蔓延が著しいミャンマーにおいて、ヤンゴン市内の中核病院に対する医療器材の支援を行い、医療環境の改善を図る。	資機材購入費/輸送費
(特活) ラオスのこども	ラオス	ホームページのリニューアルやリーフレットの作成などを行い、広報活動を強化することで、継続的な支援者の確保と自己資金調達能力の向上をめざす。	団体基盤強化費

NGO紹介

JICSは、設立10周年を記念し、1999年度に「NGO支援事業」を開始しました。この事業は、官民一体の国際協力活動の一層の発展に貢献することをめざし、開発途上国において援助活動を行う日本のNGOを支援することを目的としています。このコーナーでは、これまでに支援実績のある団体より、事業実施状況について報告していただきます。

住民対象にエイズ学習会 [アフリカ地域開発市民の会]

アフリカ地域開発市民の会 (CanDo) は、エイズ問題への取り組みとして、JICSの助成により、村の保健リーダーへのエイズ・トレーニングと、教員・地域住民を対象としたエイズ学習会を実施してきました。

ケニアの半乾燥地に位置するムイギギ県の農村では、ここ数年エイズをめぐる問題が大きな変化を見せています。エイズが「外」の問題と考えられていた農村でも、HIV感染・エイズ発症は急速に拡大し、現在はほとんどの人が身の回りでエイズにまつわる死を経験しており、その問題を住民が認識するような危機的状況

にあります。

この地域では、エイズに関するさまざまな情報が混乱を招き、しばしばエイズ患者への適切なケアを妨げたり、感染者の社会的排除につながっています。トレーニング、エイズ学習会では、基礎知識や予防方法としての適切なコンドームの使用方法を身につけた参加者たちが、情報を活用し、自らの健康・子どもたちの健康・地域の健康を守っていくことや、文化や伝統・慣習が複雑に絡まる地域で、どのように協力しこの問題へ取り組んでいけるのかを話し合います。普段あまり接点のない校長や教員、教育官、女性、男性、さまざまな立場の人がともに話し合っています。この地域では、トレーニング参加者による子どもへのエイズ教育が自発的に



エイズ学習会でのグループワーク。専門家の指導で教員、保護者、地域住民が意見を話し合う

開始されたり、エイズについて話がしやすい雰囲気が出てきたという声も、徐々にですが聞こえてきています。

アフリカ地域開発市民の会

1997年11月よりケニアの村落地域と都市スラム地域で、教育・保健・環境保全分野を三本柱として、総合的な地域開発に取り組んでいる。住民がともに開発活動に参加することで、自らの力で自らの規定する「豊かさ」の実現をしていくことへの協力をめざす。

<http://www.cando.or.jp/>

JICS支援実施年度：2004年度、2005年度

対象国：ケニア

支援事業の内容

エイズ予防のため、伝統助産婦、幼稚園教員および基礎保健トレーニング修了者へのエイズ・トレーニング、一般の住民へのエイズ啓発ワークショップを実施する(2004年度)、HIV/エイズ予防のため、小学校を基点としたエイズ教育を実施する(2005年度)



「リレーエッセイ」 No.7

映画の前にご起立を

飯干 奈美

(JICAタイ事務所出向中)

着任して2年4か月。最初の数か月こそ週末観光に出かけたものですが、ワット(寺院)も仏像も何カ所か訪れるとあとはすべて同じものに見えてしまい、元来出無精な私の最近の週末の楽しみといえば、映画館に行くか、タイマッサージに行くか、独身仲間が集まって飲み食いするかのいずれかです。

映画は数少ないタイ庶民のエンターテインメントのひとつで、バンコクっ子の週末の楽しみといえば、ショッピングか映画かカラオケと相場は決まっています。バンコクの映画産業はとても進んでいて、なかには日本よりも先に封切られる外国映画もあります。いわゆる「シネコン」がデパートの最上階には必ずとっていいほどあり、シートはゆったり、音響ばっちり、座席は全席指定、3拍子揃ったうえに1本150バーツ(約500円)前後と大変お得です。吹き替えなしの外国映画なら新作でも館内はガラガラ、まるで貸切のようです。採算が取れるのかこちらが心配になるくらいですが、とにかくバンコクでは映画鑑賞がお勧めです。そして上映前はプミポン国王を称えるショートフィルムがどこの映画館でも必ず流れますので、立ち上がって敬意を示すようにしてくださいね。ここで席を立たないと「あ、外国人だ!」とすぐにバレてしまいます。

このように、もはや開発途上国とは呼べないバンコク市内ですが、街を歩けば、幹線道路から入る細い脇道、ソイの奥にはまだまだ途上国の影が残っています。冷房の効いた映画館で映画を楽しんだ後は、「途上国な」風景を見つける街中散策へ出かけるのも面白いかもしれません。足元が悪いですからタイ人を気取ってゴム草履で出かけましょう。



タイの映画館(シネマコンプレックス)

JICSの
うごき

2006年度

第二回 通常評議員会・理事会を開催

2007年3月19日、20日の2日間にわたり、JICS会議室において、2006年度第2回通常評議員会・理事会が開催されました。

19日に開催された評議員会では、(1) 2006年度事業計画と収支予算(改正案)、(2) 2007年度事業実施方針と事業計画、(3) 2007年度収支予算、(4) 寄附行為の一部変更(案)、(5) 役員の選任について審議が行われ、承認されました。役員の選任については、新任理事1名を含む今期(2007年4月1日～2009年3月31日)の役員11名が選任されました。

翌20日に開催された理事会では、上記(1)から(4)が議決されたほか、理事長と専務理事の選任、評議員の選出について審議・議決されました。理事長と専務理事は、引き続き佐々木高久理事長と櫻田幸久専務理事が選任され

ました。評議員の選出については、新任1名を含む今期の評議員13名が選出されました。

2007年度事業実施方針

- ODAの実施におけるニーズに迅速かつ的確に応える
- 国際調達機関にふさわしい組織への体質強化を図る
- 財務体質の改善を図る

新理事・新評議員

理事

金子 洋三

社団法人青年海外協力協会 会長

評議員

櫻井 友行

独立行政法人国際交流基金 総務部長

経営企画準備室を新設

JICSでは、2008年度に予定されているODA実施体制一元化への対応を含め、「財団のビジョン」の実現に必要な経営企画を行うために、2007年1月1日付で「経営企画準備室」を新設しました。

経営企画準備室は、事務局長の直轄組織として、組織改革、業務改善、人事制度改革、新規業務企画といった、

これまで、運営諮問会議、総務課、業務企画課などで検討されてきた事項について、より専門的かつ実効的に取り組むために設置されたものです。

JICSは2009年に設立20周年を迎えます。経営企画準備室は、この20周年という節目に向けて、JICSがより専門的な「国際調達機関」へと脱皮できるよう、「JICS改革」をリードしていきます。

お知らせ

ワン・ワールド・フェスティバルに出展

JICSは、2007年2月3日、4日の2日間にわたって、大阪国際交流センター(大阪市天王寺)で開催されたワン・ワールド・フェスティバルに出展しました。

今年のJICSブースでは、ODAのなかのJICSの位置づけと役割、カンボジアでの地雷除去機材研究支援、鳥インフルエンザ対策支援について

のパネルや調達品のサンプルを提示して紹介しました。

地雷除去、鳥インフルエンザといった注目度が高いテーマを取り上げたこともあり、多くの方がJICSブースを訪れました。ODAに関心のある学生さんからは、ODAのなかのJICSの役割に関するパネルについて「わかりやすい」と感想をいただきました。来訪者の国際協力への関心は非常に高く、積極的に質問や意見を述べると

ともに、熱心にJICSスタッフの話に耳を傾けていました。

JICSは今後も、ODAやJICSの業務内容を簡単にわかりやすく皆さまにお伝えすることをめざしていきたいと思っています。



パネルを熱心に見る来訪者たち